

第32回 雨のハイキング 奥秩父 乾徳山

第1支部 (株)乾商会
理事 乾 洋介

平成19年6月10日 雨のち晴れ

ハイキング同好会もお陰様で、今回で32回目を迎えることとあいなりました。この間に一度たりとも怪我や事故も無く、皆様のお陰で楽しく歩くことが出来ました。打ち上げで飲み過ぎたり、帰りに寝過ごして遠くに行ってしまうたり、カメラや携帯やザックまでもが行方不明になっても、命を無くした人は過去に一人も居ません。唯一残念だったのは一回だけ雨に降られたことでして、後の30回は晴れや曇りで天気の心配などしたことがありません。

ところが今回なんと二回目の雨が降ってしまいました。今回の乾徳山は二千mを超え、6時間の長いコースタイムを、これまた正直に私が書いてしまった為に、参加者が少なくなってしまいました。標高三百m、4時間程の行程と書いておけば良かったと反省しています。ところが当日になって雨の予報の為(実際に雨でした)、ドタキャンがあり(名前はあえて伏せる)参加者は何と私と磯部さんの2名になってしまいました。過去に3名の参加という日もありましたのでこの記録を更新してしまっただけです。

当ハイキング同好会の案内には“雨天決行”と書いてあります。書いてあるからにはこれを幹事が破ることはまかりならない訳であります。小雨決行ではありません。雨天決行とは台風が上陸しても、大雨洪水雷警報が発令されても、洪水の中、たとえ家から泳いでも山に登るということです。正に自衛隊のレンジャー部隊か、米軍のグリーンベレー並の決意が要求されます。雨のことばかり書いてしまいました。竜巻決行とか土砂崩れ決行、病気決行、骨折決行とかも書いておいたほうが親切かも知れません。今後はこの厳しい掟を会の憲法にしなくてはならないと思う次第です。

まあそんなこんなで、二人寂しく寄り添いながら塩山の駅に向かった訳であります。雨の中、来たバスに乗った登山者も数人という寂しさです。普段は人気のある山ですから座れないほどの混雑なのですが、今日に限っては余程の物好きか変人しか乗っていません。

乾徳山登山口でバスを降り、道満尾根コースから登り始めました。雨は気持ちよく降り続けています。当然視界は悪く、山はガスの中です。途中の国師平という普段は景色の良いところで、これまた物好きな登山者数人とすれ違いました。向こうも同じことを思っているでしょう。

ここから乾徳山は岩場の混じるルートになり、頂上直下は急な鎖場になって

おりモモンガのようによじ登って山頂に着きます。ここが今回は雨の為滑って少し危険でした。記念写真も程々に山頂を後にしてひたすら下りました。

やっこの頃になると雨も止み、時折青空も見えるではないですか。我々二人が飛ばして来たにもかかわらず、全行程6時間近くかかってしまいました。他の参加者がいたら最終バスに間に合わなかったことは確実です。

濡れた衣服をバス停で着替え、缶ビールを1本飲んでからバスで塩山駅に戻り、八王子の若林さんに“これから行くぞ”と電話を掛けて八王子駅に向かった訳です。もちろん打ち上げのためです。

駅の近くの寿司屋さんで若林さん夫婦を肴に大いに飲んだのでした。今回は雨になった訳ですが、雨のハイキングもなかなか‘おつ’なものでした。これからは雨の降りそうな日を選んで皆様にも体験していただこうと思っています。早速気象庁に雨の特異日を問い合わせしてみよう。

今回のハイキングに参加できなかった方は本当に残念でしたが、今後も楽しく面白い企画を練りますので、だまされたと思って参加してください。磯部さんと私がいるからには信用度外視、根性丸出し、雨天強行、暴飲暴食で望みたいと思います。

メタボリックシンドロームとは無縁のハイキング同好会を宜しくお願い致します。